

住宅改修が必要な理由書 <記入要領>

(P1)

<基本情報>

利用者	被保険者番号		年齢	歳	生年月日	年	月	日	性別	☐ 男 ☐ 女
	被保険者氏名		要介護認定 (該当に○)	要支援	要介護					
				1・2	1・2・3・4・5					
	住所	作成者 作成者と担当介護支援専門員が異なる場合、担当介護支援専門員は「住宅改修が必要な理由書」の内容を確認し、確認日・事業所名・担当居宅介護支援専門員名を記入してください。								
保険者	確認日	年	月	日	評価欄					
	氏名									

〇年〇月〇日 居宅介護支援事業所名・担当介護支援専門員名

現地確認日	年	月	日	作成日	年	月	日
所属事業所							
資格	(作成者が介護支援専門員でないとき)						
氏名							
連絡先							

<総合的状況>

利用者の身体状況	たとえば、移動や立ち上がり、姿勢保持といった生活動作に関連する身体状況を記入する。 屋内及び屋外での移動方法（自立歩行・つたい歩き・介助歩行・歩行器利用など）を	福祉用具の現状の利用状況と改修後の想定		
介護状況	家族の状況、主な介護者を含む介護状況を記述する。	改修前	改修後	
住宅改修により、利用者は日常生活をどう変えたいか	住宅改修によって利用者・家族は、介護状況、A D L、社会参加など、日常生活をどう変えたいと思っているのか（特に何を希望しているのか）また、その効果を記述する。			

改修前と改修後想定される福祉用具の利用状況を確認する。

●車いす	☐	☐
●特殊寝台	☐	☐
●床ずれ防止用具	☐	☐
●体位変換器	☐	☐
●手すり	☐	☐
●スロープ	☐	☐
●歩行器	☐	☐
●歩行補助つえ	☐	☐
●認知症老人用	☐	☐
●歩行補助つえ	☐	☐
●移動用リフト	☐	☐
●腰掛便座	☐	☐
●特殊尿器	☐	☐
●入浴補助用具	☐	☐
●簡易浴槽	☐	☐
●その他	☐	☐
()	☐	☐
()	☐	☐
()	☐	☐
()	☐	☐

(P2)

<P1の「住宅改修により、日常生活をどう変えたいか」を踏まえて、①改善しようとしている動作②具体的な困難な状況③改修目的・期待効果④改修項目 を具体的に記入してください。>

①改善をしようとしている動作		②①の具体的な困難な状況(…なので…で困っている)を記入してください		③改修目的・期待効果をチェックした上で、改修の方針(…することで…が改善できる)を記入してください		④改修項目(改修箇所)	
排泄	☐ トイレまでの移動 ☐ トイレ出入口の出入 (扉の開閉含む) ☐ 便所の立ち座り	生活動作で困っていること、問題点について、その状況や介護の現状を具体的に記述する。 - 改修案の検討の際は全ての行為についてチェックが必要だが、理由書では改善しようとする行為に限定したコメントでよい。 - 生活のどの場面、どの動作が利用者・介助者にとって大変なのか、動作の流れに沿って一つずつ見極めること。寝たきりならば「座位が保てるか」、歩行ができれば「段差を越えられるか」などについても記入する。 ①のレ点評価と②のコメントの両方を併せて利用者の状況が伝わるようにする。 - 移動について各行為(排泄・入浴・外出)に共通する内容は、たとえば「排泄」の欄のみに記入し、各行為	☐ できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他	①②を記入し、現状の問題点をふまえた上で改修目的の項目をチェックする。各行為の困難事項を改善するために、どのような改修を行うのか、その方針を記述する。 - 改善方法は「手すり設置」や「段差解消」という表現ではなくてもよい。「つかまれる所を」「つまづかない工夫」「立ち上がりの支え」などの表現でもよい。 - 一つの改修項目が複数の目的のために行われる場合はまとめて記述してもよい。	☐ 手すりの設置 () () () () () () () () () ☐ 段差の解消 () () () () () ☐ 引き戸等への扉の取替え () () ☐ 便器の取替え () () () ☐ 滑り防止等のための床材の変更 () () () ☐ その他 () () () ()		
	現状の改善を必要とする動作についてレ点チェックをする。今回改修の対象でない項目にはレ点チェックする必要はない。 (立ち座りを含む) ☐ 洗い場での姿勢保持 (洗体・洗髪含む) ☐ 浴槽の出入 (立ち座りを含む) ☐ 浴槽内での姿勢保持 ☐ その他()					できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他	自己評価のためのチェックボックスです。改修後に、効果があったものにレ点チェックを入れます。自分の立てたプランが効果的であったか振り返ることができます。次の住宅改修に役立てましょう。
入浴	☐ 出入口までの屋内移動 ☐ 上がりかまちの昇降 ☐ 車いす等、装具の着脱 ☐ 履物の着脱 ☐ 出入口の出入 (扉の開閉含む) ☐ 出入口から敷地外までの屋外移動 ☐ その他()	生活のどの場面、どの動作が利用者・介助者にとって大変なのか、動作の流れに沿って一つずつ見極めること。寝たきりならば「座位が保てるか」、歩行ができれば「段差を越えられるか」などについても記入する。 ①のレ点評価と②のコメントの両方を併せて利用者の状況が伝わるようにする。 - 移動について各行為(排泄・入浴・外出)に共通する内容は、たとえば「排泄」の欄のみに記入し、各行為	☐ できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他	①②を記入し、現状の問題点をふまえた上で改修目的の項目をチェックする。各行為の困難事項を改善するために、どのような改修を行うのか、その方針を記述する。 - 改善方法は「手すり設置」や「段差解消」という表現ではなくてもよい。「つかまれる所を」「つまづかない工夫」「立ち上がりの支え」などの表現でもよい。 - 一つの改修項目が複数の目的のために行われる場合はまとめて記述してもよい。	☐ 手すりの設置 () () () () () () () () () ☐ 段差の解消 () () () () () ☐ 引き戸等への扉の取替え () () ☐ 便器の取替え () () () ☐ 滑り防止等のための床材の変更 () () () ☐ その他 () () () ()		
入浴 ☐ 浴槽の出入 (立ち座りを含む) ☐ 浴槽内での姿勢保持 ☐ その他()	できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他					自己評価のためのチェックボックスです。改修後に、効果があったものにレ点チェックを入れます。自分の立てたプランが効果的であったか振り返ることができます。次の住宅改修に役立てましょう。	
外出	☐ 出入口までの屋内移動 ☐ 上がりかまちの昇降 ☐ 車いす等、装具の着脱 ☐ 履物の着脱 ☐ 出入口の出入 (扉の開閉含む) ☐ 出入口から敷地外までの屋外移動 ☐ その他()	生活のどの場面、どの動作が利用者・介助者にとって大変なのか、動作の流れに沿って一つずつ見極めること。寝たきりならば「座位が保てるか」、歩行ができれば「段差を越えられるか」などについても記入する。 ①のレ点評価と②のコメントの両方を併せて利用者の状況が伝わるようにする。 - 移動について各行為(排泄・入浴・外出)に共通する内容は、たとえば「排泄」の欄のみに記入し、各行為	☐ できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他	①②を記入し、現状の問題点をふまえた上で改修目的の項目をチェックする。各行為の困難事項を改善するために、どのような改修を行うのか、その方針を記述する。 - 改善方法は「手すり設置」や「段差解消」という表現ではなくてもよい。「つかまれる所を」「つまづかない工夫」「立ち上がりの支え」などの表現でもよい。 - 一つの改修項目が複数の目的のために行われる場合はまとめて記述してもよい。	☐ 手すりの設置 () () () () () () () () () ☐ 段差の解消 () () () () () ☐ 引き戸等への扉の取替え () () ☐ 便器の取替え () () () ☐ 滑り防止等のための床材の変更 () () () ☐ その他 () () () ()		
外出 ☐ 出入口の出入 (扉の開閉含む) ☐ 出入口から敷地外までの屋外移動 ☐ その他()	できなかったことをできるようにする ☐ 転倒等の防止、安全の確保 ☐ 動作の容易性の確保 ☐ 利用者の精神的負担や不安の軽減 ☐ 介護者の負担の軽減 ☐ その他					自己評価のためのチェックボックスです。改修後に、効果があったものにレ点チェックを入れます。自分の立てたプランが効果的であったか振り返ることができます。次の住宅改修に役立てましょう。	
その他の行為動作							

* 自己評価。改修後、効果のあったものにレ点チェックを入れる。